

ボランティアバンクの活動

栃木県佐野市立北中学校

— 学 校 の 概 要 —

学校規模

学級数：26学級(内特殊学級1学級)

生徒数：935人

教職員数：46人

体験活動の視点からみた学校環境

佐野市は、昭和30年代まで農村地帯であったが、昭和40年の工業団地開設を契機に、多様な産業が発達し、それに伴い、多くの人に移り住んできた。行政においては、学校教育ボランティア制度を推進するなど、広く地域人材の活用に力を注いでいる。

平成12年に佐野市ボランティアセンター(社会福祉法人佐野市社会福祉協議会)が開設され、ボランティアの登録、あつ旋を行っている。また同センター主催のふれあいフェスティバルやボランティアフェスティバル等の地域行事も盛んに行われている。更に同センターでは、夏休みに中学生を対象とした障害のある方々との交流事業やボランティア体験活動を積極的に推進し、地域の人材育成に努めている。

本校は平成11年度より3年間、栃木県社会福祉協議会より「栃木県学童・生徒のボランティア活動普及事業協力校」としての指定を受けた。

連絡先

〒327-0844

栃木県佐野市富岡町93番地

電話：0283-23-0961

FAX：0283-23-0946

電子メール：sa-kit-t@sunfield.ne.jp

— 体 験 活 動 の 概 要 —

活動のねらい

学校教育目標の達成と、特色ある学校創造への取組の中で、ボランティア活動の実践や学級活動、道德等との関連を通して、生命や人権の大切さを知るとともに、思いやりの心を持って身近な社会に関わり、自己実現を図る生徒を育成することを目的とする。

主な活動内容・方法(位置づけ・期間等)

学校の創意の時間に、年間10回程度「ボランティアタイム」を設けて、「一人1ボランティア」を目標に活動する。

生徒は、自分の興味・関心に合わせて11のボランティア活動の中から1つ選び、「ボランティアバンク」に登録する。

学年の枠を外し、1年生から3年生までが一緒になって同じ活動を行うことができる。

体制等の工夫

「思いやりの心を育む教育活動実践部」及び「JRC推進委員会」の教師を中心に、全教師で指導に当たる。

「生徒会JRC委員会」の生徒がバンクの運営に携わる。

活動の成果等

充実感・達成感を体験することができ、次の活動への意欲付けとなる。

異年齢集団での学習活動が減りつつある今、お互いを認めつつ、助け合いながら活動する姿が見られるようになった。

卒業後も地域開催行事等にボランティアとして参加したり、施設訪問を続けている卒業生も多い。

1 活動に関する学校の全体計画

(1) 活動のねらい

ア ボランティア活動を通して、生命の大切さを知り、相手の立場になって考えたり、共感したりできる温かい心を育てる。

イ 人間相互の連帯感を育み、身近な社会に関わることの大切さを学ばせる。

ウ 自己の生き方を見つめ、自己実現を図り、力強く生きようとする心を育てる。

(2) 全体の指導計画

ア 活動の名称

「ボランティアバンクの活動」

イ 実施学年

全学年

ウ 活動内容及び活動場所

年度始めに、全校生徒が本校で設定している「ボランティアバンク」への登録を行う。生徒は11種類の活動の中から自分の興味や関心に合わせて必ず1つ選び登録する。原則として教育課程に位置付けられた「ボランティアタイム」において活動を行っている。高齢者施設訪問や障害のある方々との交流、地域イベントへの参加は、土曜日の午後や日曜日、祝日に実施しているものもある。各ボランティアバンクの活動の概要は、次のとおりである。

(ア) 高齢者福祉施設訪問

特別養護老人ホーム「唐沢静山荘」を訪問し、高齢者とのレクリエーション、話し相手、食事の介助、館内の清掃、花壇の整備などを行う。

(イ) 保育所訪問

「安佐私立幼稚園センター」を訪問し、園児の遊び相手をする。

(ウ) 障害者との交流

佐野市ふれあいフェスティバルなどにボランティアとして参加する。また知的障害者厚生施設「とちのみ学園」を訪問し、行事に参加する。

(エ) 朗読

朗読ボランティアの講師を招き、朗読の練習を行う。録音図書作りをしてテープを盲学校などへ贈ったり、高齢者や幼稚園児に本を読んで聞かせたりする。

(オ) 手話

手話サークルの講師を招いて講習会を開き、手話を覚える。日常会話や歌を手話で表現する。

(カ) 点字

点訳サークルの講師を招いて講習会を開き、点字盤を使って簡単な物語などを点訳して点字を覚える。製本した後、福祉施設へ寄贈する。

(キ) カウンセリング

カウンセリング学習(グループエンカウンター、ロールプレイ等)を通して、友達の相談相手となる技能を身に付けることにより、円滑な交流活動の実施に資する。

(ク) イベントの手伝い

国際交流フェスティバル等の公共のイベントの事前準備や当日の運営などの手伝いをする。PTAバザー等の校内行事の手伝いをする。

(ケ) 影絵

影絵を製作・練習し、福祉施設などで上演する。

(コ) 緑化

農園や庭園の活動。高齢者や障害者の福祉施設を訪問し、草花を植える。

(サ) 秋山川グランドワーク

「秋山川」清掃、及び芝桜の定植と除草作業を行う。(年間5回程度)

エ 教育課程上の位置付け及び実施時期(日数や時間数)

学校の創意を生かした教育活動の時間(金曜日に実施)の中に「ボランティアタイム」として、年間10回、1回50分間の活動が計画されている。このほか、校外で行われている施設訪問や地域行事等への参加は随時行っている。

オ 継続の状況等

平成9年度より、特別養護老人ホーム唐沢静山荘への訪問を始める。

平成10年度にJRC(青少年赤十字)に登録。「ボランティアバンク」を設立し、7つのボランティア活動を始める。

- ・高齢者福祉施設訪問
- ・学童保育所訪問
- ・障害者との交流
- ・朗読
- ・手話
- ・点字
- ・イベントの手伝い

また、佐野市民の一員として「市内一斉秋山川清掃」に学校として参加する。

平成11年度に「カウンセリング」と「緑化」を加え、9つのバンクとなる。

平成12年度に「秋山川グランドワーク」を新設し、それまで「イベントの手伝い」で行ってきた「影絵」を独立させ、11のバンクとなる。この年「学童保育所訪問」を「保育所訪問」に改める。

2 活動の実際

(1) 事前指導

ア ボランティアバンクの登録について

(ア) ボランティアバンクの内容検討

JRC推進委員会において、生徒が実施可能なボランティア活動の内容を検討する。

(イ) ボランティアバンク登録希望調査

一人1ボランティアを主体的に実践するために、全校生徒を対象として登録希望調査を行う。(第2希望まで記入)

(ウ) ボランティアバンクへの登録

生徒の希望を重視。必要に応じ、教師の指導・助言を得ながら一人一人に適したボランティアバンクに登録していく。(極端に登録人数に差がある場合は、第2希望をもとに調整)

イ 教科指導との関連

(ア) 学級活動

- ・ ボランティア活動の意義の理解
- ・ カウンセリング学習の取組を通じたコミュニケーション能力の育成
- ・ 進路学習(職場見学・職場体験学習)の実施

(イ) 道徳

- ・ 人間愛、感謝や思いやりの心、勤労の尊さや意義、奉仕の精神、公共の福祉と社会の発展等に関わる。

ウ 各ボランティアごとに行う事前指導

年度初めの全校集会で、各ボランティアごとの細かな注意事項、交通安全指導等を実施。
また訪問ボランティアについては、グループ分けを行い、訪問前日に再度事前指導を実施する。

(2) 活動の展開

ア 年間活動計画

月	学級・学年活動	各ボランティアバンクの主な活動	P T A・地域との連携
4	・ボランティアバンク登録希望調査	ボランティアバンクへの登録	
5	・1年生JRC登録 ・生徒会JRC委員による呼びかけ	・市内一斉秋山川清掃 ・佐野市ふれあいフェスティバル参加 ・秋山川土手除草 ・「とちのみ祭り」参加	
6	・生徒会JRC委員による呼びかけ	・唐沢静山荘訪問 ・朗読講習会 ・手話講習会 ・点字講習会 ・カウンセリング講習会 ・影絵製作 ・安佐私立幼稚園センター訪問	
7	・生徒会JRC委員による呼びかけ	・唐沢静山荘訪問(納涼祭) ・「ふれあい探検隊」参加	・町内別奉仕活動参加 ・町内行事参加
8		・保育園訪問 ・JRCトレーニングセンター参加 ・中高生ボランティアスクール参加	・町内行事参加 ・各地区体育祭参加と協力
9	・生徒会JRC委員による呼びかけ	・唐沢静山荘訪問 ・朗読講習会 ・手話講習会 ・点字講習会 ・カウンセリング講習会 ・影絵製作	・運動会高齢者席準備 ・市民体育祭参加

イ ボランティアタイムの活動例

ウ 唐沢静山荘訪問実施計画

10/19(金) ボランティアタイムの活動内容について

JRC推進委員会

今週のボランティアタイムにおける各バンクの活動内容は、次の通りとなっています。
「朗読」「手話」「点字」については、講師の先生方が来校しての講習会となります。担任の先生は、関係生徒に必ず参加するようお願いください。

各ボランティアバンクの活動場所(集合場所)

ボランティアの内容	参加生徒	活動(集合)場所	活動内容
高齢者福祉施設訪問	16名 (別紙参照) その他 (60名)	現地集合 集会室	第3回唐沢静山荘訪問 11月の唐沢静山荘訪問について
保育所訪問	10名 (別紙参照)	現地集合	第3回安佐私立幼稚園センター訪問
障害者との交流	10名 (別紙参照)	1年5組	とちのみ学園運動会について
朗読	19名 (全員)	理科室	講師の先生4名が来校しての講習会
手話	48名 (全員)	調理室	講師の先生2名が来校しての講習会
点字	36名 (全員)	3年2組	講師の先生3名が来校しての講習会
カウンセリング	14名 (1年生)	3年4組	グループエンカウンター
イベントの手伝い	95名 (全員)	体育館	国際交流フェスティバルについて
影絵	18名 (全員)	個別指導学級	影絵制作
緑化	24名 (1,2年生)	中庭	花壇の整備 土づくり
秋山川グランドワーク	133名 (1年全員)	現地集合	堀橋北側土手の除草

活動時間 **A日課**
 ・14:50～15:05……………清掃
 ・15:15～15:30……………終わりの会
 ・**15:40～16:30(50分間)……………ボランティアタイム**

平成13年度 第1回「唐沢静山荘」訪問計画

佐野市立北中学校

- 目的
 - 高齢者との交流を通して思いやりの心を育てる。
 - 静山荘職員の仕事に接し、福祉活動の意義を考え、ボランティア意識の高揚を図る。
 - 活動全般を通して、高齢化が進む現代の課題について考える。
- 訪問日時
平成13年 5月 19日(土) 午後 2:00 - 4:00
午後1:30に、3年昇降口前に集合し、自転車で出発する。
- 訪問場所
特別養護老人ホーム「唐沢静山荘」(社会福祉法人「静山会」)
佐野市奈良瀬町 701-2 (県立自然公園唐沢山山麓)
TEL 22-4270
- 参加生徒
32名(1年生 11名、3年生 21名) *2年生洋上宿泊学習
ボランティアバンク「高齢者福祉施設訪問」および「緑化」に登録してある生徒の中から選出
持参する物……うわばき 服装……… 体育着
学校から直接訪問する生徒は、弁当を持ってくる。
徒歩通学者で、学校から直接訪問する生徒は、当日は自転車で登校し、柔剣道場西側に駐輪する。
- 引率教師
(以上3名)
- 活動内容
 - 高齢者との談話・レクリエーション(ボーリングボールつきカラオケ等)…… 10名
 - 清掃(廊下、居室、窓、車椅子等)…………… 10名
 - 花壇の整備(除草)、サツマイモ苗植え込み…………… 12名
(1)と(2)は、バンク「高齢者福祉施設訪問」の生徒があたり、約45分間で、活動内容を交換する。(3)はバンク「緑化」の生徒がある。
- 実施計画
 - 事前
静山荘への協力要請(活動内容の確認等) 参加生徒の募集、人数調整
事前学習会(留意点の確認等) 引率方法の検討
 - 事中
活動内容に準ずる活動 写真・メモ記録
 - 事後
参加生徒による反省(記録簿準備) 引率教師による検討
静山荘職員との連絡、検討

(3) 事後指導

ア 各バンクごとに行う反省

活動後に活動を振り返り，感想を記入する。

生徒の感想は，学校だより(月1回発行)や学校誌(毎年3月発行)に掲載する。

イ 年間の反省

年度末のボランティアタイムに実施。所属していたバンク名，ボランティア活動に参加しての感想，来年度登録したいバンク名，来年度の抱負などとともに，ボランティアバンクの活動をより活発なものにするための方法を考えさせる。

ウ 成果の発表

- ・ 全校朝会において，1年間の活動の成果を生徒会JRC委員会が発表する。
- ・ 1年間の活動の足跡を学校誌に掲載する。

3 体験活動のための体制

(1) 学校の体制，家庭や地域，関係団体・施設・機関等との連携

「思いやりの心を育む教育活動実践部」及び「JRC推進委員会」の教師が，各バンクの運営担当者となるが，全教師が必ずいずれかのバンクに所属し，全校体制で体験学習の指導に当たっている。また，手話，点字，朗読の各講師の派遣は，「佐野市社会福祉協議会」を通して行い，地元「秋山川」の清掃活動の際には，「青年会議所」の方々の支援を受けている。他の連携団体は以下のとおりである。

「安佐手話通訳者会」

「安佐私立幼稚園センター」

「カウンセリング協会」

「こばと会(点訳サークル)」

「佐野市立北中学校PTA」

「佐野市教育センター」

「佐野市ボランティアセンター」

「佐野市国際交流協会」

「佐野市聴覚障害者協会」

「社会福祉法人 知的障害者厚生施設 とちのみ学園」

「社会福祉法人 静山会 特別養護老人ホーム 唐沢静山荘」

「やまびこの会(朗読ボランティア)」

(2) その他

ア 生徒会専門委員会

生徒会JRC委員会において，各バンクの担当生徒を決め，指導教師との連絡役を務めたり，ボランティア活動の内容説明や参加呼びかけ等を行う。

イ 予算措置

- ・ ボランティア活動普及事業協力校のための予算
- ・ 生徒会JRC委員会の予算

ウ 教員研修

本校では，現職教育でボランティアに関する研修を行っており，施設訪問や点字体験等を毎年1回実施してきた。今後とも，更に研修を深め，教員としての資質を高めていきたいと考えている。

4 成果と課題

(1) 成果

年度末に実施された生徒の意識調査の集計結果をみると，はじめは「面倒くさい。」，「恥ずか

しい。」と思いつつも、「貴重な体験をした。」、「やり通せて自信がついた。」、「ありがとうと言われて嬉しかった。」、「大変だったが、また訪問したい。」など、活動する中で、生徒の心の変容がうかがえる感想が多数を占めている。また、「バンクの種類を増やし、活動の回数を増やしてほしい。」、「クラス単位で施設訪問をしてはどうか。」、「一般の人も自由にバンクの活動に参加できるようにしてほしい。」といった建設的な意見も生徒の中から出ている。このような達成感や満足感は、体験学習ならではの教育的成果であり、「思いやり」の心が少しずつ醸成されていると考えられる。ボランティアバンクの活動を始めてから4年目を迎えた今日、卒業後してからも地域のボランティア活動に参加する卒業生の光景が見られるようになった。

(2) 課題

何度かボランティア活動を経験すると「充実感」や「達成感」、更には「次の活動への意欲」がわいてくるが、900余名の生徒の中には、現在実施している「点字」、「手話」、「朗読」の講習で、何のために学んでいるかの意識が低い生徒もいる。これを解決するためには、「教師から与えられたから」ではなく「自分たちに必要だから」という意識や認識の改革が必要である。事前の学習の充実や生徒の主体性を重視したバンクの運営を今まで以上に考えていかなければならない。

5 今後の取組

(1) 次年度に向けての改善の方法

学校教育法において、学校は児童生徒の体験的な学習活動、特にボランティア活動など社会奉仕体験活動の充実に努めるものとする規定されたことを踏まえ、今後も本校での取組は、改善を加えつつ継続して行っていきたい。また、生徒も支援にあたる教師も「ゆとり」をもって、無理なく活動できるものとしていかなければならない。そのためには、学校行事等の見直しや精選も、体験学習を充実させる上で大切なことと考えられる。新学習指導要領に基づいた学校教育の中にしっかりと根付いた体験学習を模索していきたい。

【本事例活用に当たっての留意点】

本校の体験活動は、「高齢者福祉施設訪問」や「障害者との交流」などをはじめとした11のボランティアのうちから生徒が興味・関心に合わせて必ず1つを選び登録して活動を行うというボランティアバンク制度を設けている点に特色がある。また、生徒会JRC委員会の生徒がボランティアバンクの運営に携わり異学年集団による活動が行われている点も特色となっている。活動は、高齢者福祉施設を訪問し食事の介助や館内の清掃など、各ボランティアバンクで様々な活動が行われている。その結果、生徒に「やり通せて自信がついた」などの感想や活動を活発化させるための建設的な意見が出ているという。

このような活動を行うためには、ボランティア活動の意義についての事前指導を充実させること、また、ボランティアバンクに対して生徒の主体的な選択が行われるための工夫を行うことが大切である。なお、こうした異学年での活動の機会において、多くの者がリーダーの経験を得られるよう指導を工夫することが大切である。